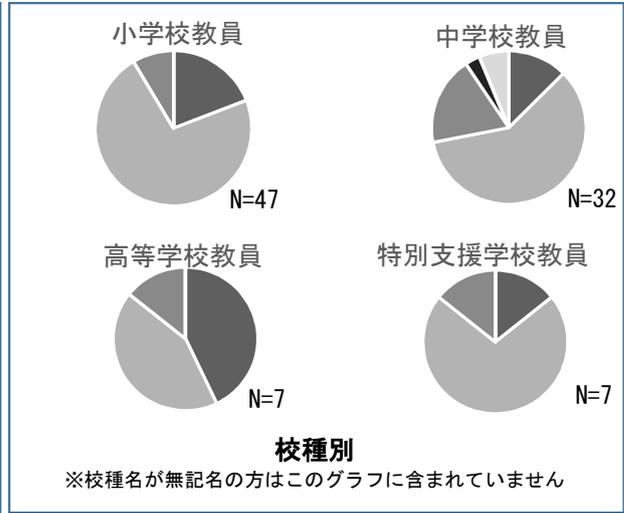
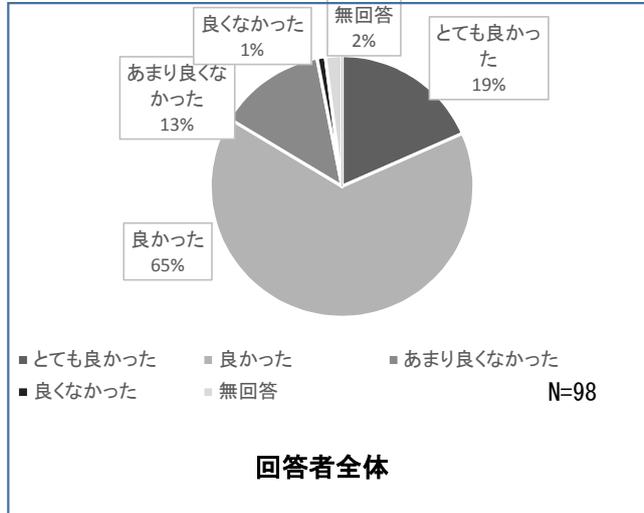


【教職員】

平成29年度「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」等新任研修 (しが学校支援メニューフェア) アンケート集計結果

■期 日：平成29年8月4日(金) ■会 場：ピアザ淡海
■対 象：小・中・高等学校・特別支援学校教員
[98名(メニューフェアは108名)より回答]

Q1 本日の講義・演習はいかがでしたか

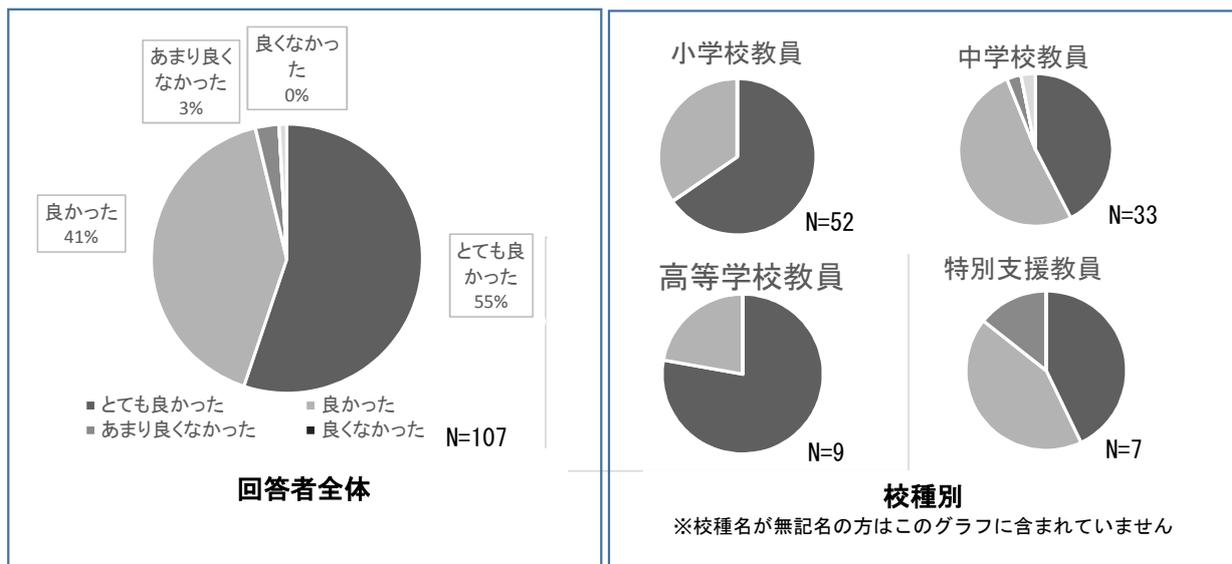


理由等自由記述欄より

■以下、アンケートの記述欄から抜粋して紹介します。
■記述内容により、いくつかの категорияに分けてあります。
■企業・団体・NPO等の方を以下「支援者」と表記させていただきます。

- ・ 教育の流れ、新学習指導要領がめざすところ、キャリア教育などがよくわかった。また、グループの話し合いの中で、それぞれの学校の現状について知ることができた。
- ・ 学校と地域が協力することで、今よりもっと充実した教育を進めていけると思う。自分の立場でできることを考え実践していこうと思う。
- ・ グループワークは、特別支援学校ではテーマを絞りにくい点があったが、それぞれの学校が取り組んでいることを情報交換できたことはよかった。
- ・ 学校だけではできることに限界があるので地域も巻き込んで子どもたちをみていかなければならないと改めて感じた。そのためにも、学校、地域共に情報発信が大切だと思う。
- ・ 一人で地域と学校を結ばないといけないと思っていましたが、生重先生の話聞いて少し楽になりました。自分の得意なことに力を注いでいきたい。

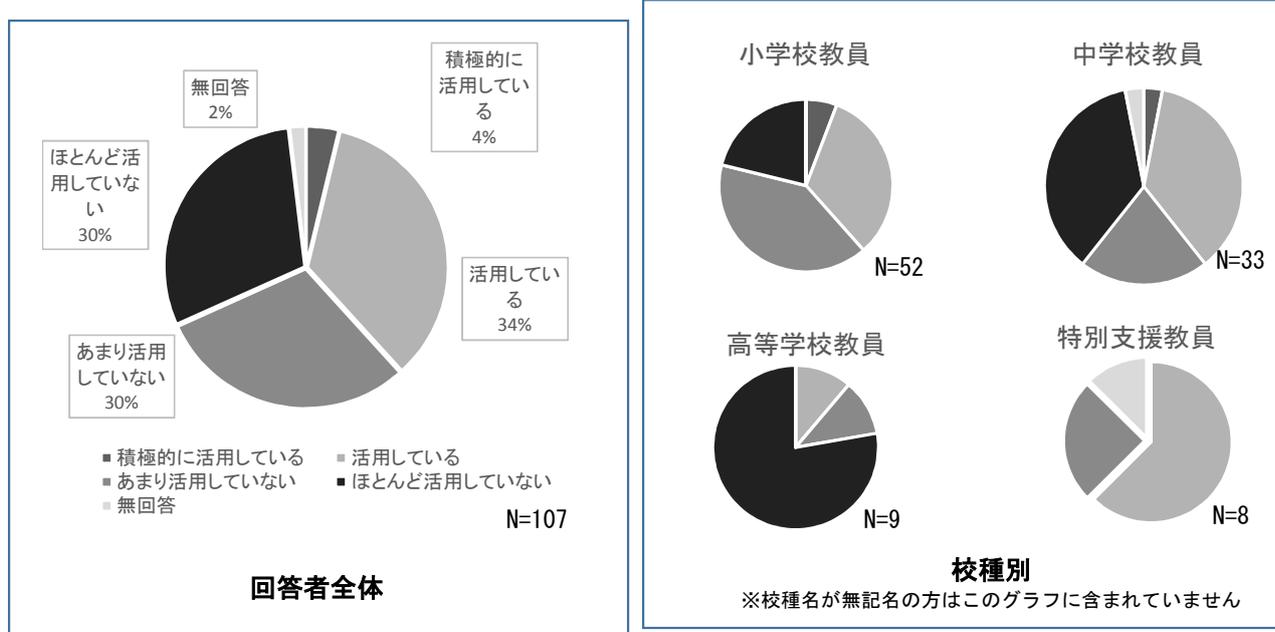
Q 2 「しが学校支援メニューフェア」のブース展示はいかがでしたか



理由等自由記述欄より

- ・ とても熱心にアピールされていて、その情熱に圧倒された。それほどのエネルギーをもって支援しようと思ったださる方がたくさんおられることに感動した。
- ・ 生徒たちにどう伝えていくかという視点だったので、すべて身近で興味のあるものばかりだった。回っていて楽しかった。
- ・ ほとんどの担当者の方々が、特別支援学校でも実際に支援メニューを提供していたり、実際に提供する時は相談してくださいと学校事情に理解を示してくださったので、積極的に利用できると感じた。
- ・ 特別支援のくくりがないので不安もあったが「行かせてもらいますよ」と言ったださるブースもあり、工夫と打合せを密に行えば可能な取組はたくさんあると感じた。
- ・ どの企業、団体様も学校に対する支援の熱意を伺うことができ、有意義だった。新しい行事として取り入れると負担が増すので日頃の学習をより深い学びとして押さえるための手段として活用できればと思う。

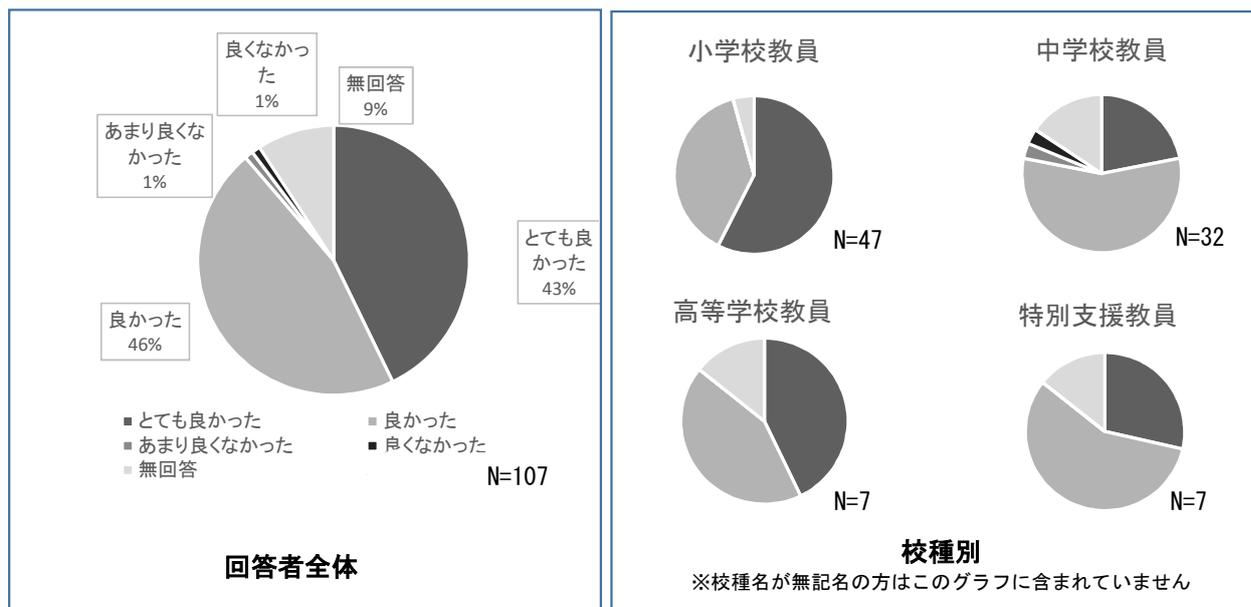
Q 3 あなたは学校では、現在「学校支援メニュー」を活用されていますか



理由等自由記述欄より

- ・ 専門性が高く、子どもに有効なものが多い。教員では伝えきれない専門の人からの話は子どもたちにとって有意義である。
- ・ 総合的な学習の中で5年前から活用させていただいている。有意義な学習にしているため大変助かっている。
- ・ 学校の教育ニーズに合わせて独自に他企業に依頼したりもしている。
- ・ 今年既に2つの企業等に来ていただいた。どちらも子どもの学びを深めるのに有用であった。
- ・ これまでの内容での課題、新規で取組内容を整理していくことで新しい分野や団体などの活用を見直していく予定である。

Q 4 今回の情報交換はいかがでしたか



理由等自由記述欄より

- ・ 教師の視点にない企業側の努力、展開、スピードに感心した。子どもの将来多様性に対応させるためにも、企業をはじめ、地域ぐるみ社会総がかりで取り組むことが大切だと感じた。
- ・ 教科書に載っていない分野においても、将来の生活において教えてもらえる機会の設定は大事。
- ・ 学校側、支援者側の思いをすり合わせることの重要性を改めて痛感した。メニューも豊富なだけに学校、担任の思い、目的を明らかにして利用すべきであると感じた。
- ・ 企業の方々の立場や思いを知ることができ、これは私にとって大切な財産となった。子どもの感想やふり返りが企業の方にもお役に立っていることもあるということがよかった。こんなにもたくさんのメニューがあることは、この担当になりこの出張で初めて知ることができた。学校に帰ったら必ず伝えたいと思うし、転職があっても校内での引き継ぎを確実にしていかなければならないと思った。
- ・ 他の学校、支援者の方々の要望や現状を聞くことができ、とても有意義な時間だった。「ワールドカフェ方式」を初めて体験できたのもよかった。

Q 5 本研修をとおしてあなたが今後生かせることは何ですか。

- ・ 10年にわたる活動を全国に先駆けて続けてこられたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。
- ・ 学校支援メニューを生かしていくためには年間カリキュラムに位置付けていくことが重要。そのためには前年度の間に提案していかななくてはならない。その仕事(提案)をしていくのが、私の仕事の一つだと考えるので、学校にもどって職員に提案していきたい。
- ・ 学校支援メニューを職場で広めること。生徒だけでなく教員や保護者も対象として可能だと感じた。授業(学習)だけでなく、放課後やクラブ活動等でも取組が可能であると感じた。

情報はいっぱいあることがわかった。でもその活用のためには「人」とのつながりが必要だと改めて思った。今後、活用していきたいことがたくさん見つかった。それをうまくするのも失敗させるのも人とのコミュニケーションを大事にしていきたいと思った。

- ・ 本日の研修を無駄にしないために、学んだことを学校の先生方に周知することが、生かす第一歩だと思う。まず、学年主任会にて学んだこと、知ったことを話し伝え、主任から担任へと伝えてもらう。子どもにとってどうかを第1に考えて活用できるようコーディネーターとして行動していこうと思う。

【しが学校支援センターより】

講義・演習、メニューフェア、情報交換会いずれも参加者の研修に対する満足度は全体的に高い。

講義・演習において、第1回目に引き続き、生重氏を講師として、今後の学校教育のめざすところから、地域と学校が連携・協働することの大切さやキャリア教育や新学習指導要領について講義いただき、受講者の理解を深めることができた。後半は、小中学校においては、地域別のグループ、高等学校、特別支援学校においては校種別にグループ編成し、学校と地域との連携のあり方や具多的な役割について、それぞれの学校の実状等を意見交換しながら話し合った。限られた時間内でのワークとなり、学校によって地域の実情に差があることもあり、意見をまとめ、深く議論するところまでには至らなかったが、それぞれの取組を交流する中で、学校と地域を結ぶコーディネーター担当者として具体的にできることは何かを考えるよい機会となった。

ブースの展示については、2階、3階の各会議室を中心に出展していただいた。支援者の方と話をすることにより、「学校支援メニュー」を有効に活用したいという思いをもたれた方が大変多くおられ、大変有意義な機会となった。一方で、設定時間に対する意見も一部あった。

情報交換会では、いろいろな立場の意見を聞けるようにワールドカフェ方式でグループワークを行った。企業・団体の方々がどんな思いで学校への支援をしておられるのかを知る機会ともなり、改めて「学校支援メニュー」を活用することの意義を認識し、学校と地域を結ぶコーディネーター担当者としてできることを考えていただくきっかけとなった。